

# 大阪市大田演劇部「つのぶえ」のこと

西尾 雅 一（経昭34卒）

昭和二十二年大阪商大時代に発足した演劇部「つのぶえ」は学生運動混乱の続く中、昭和四十三年の公演を最後に消滅した。現在の演劇部「カオス」とは縁がない。さみしい限りである。

平成八年十一月二十七日、お初天神の料亭八甲で第一回「つのぶえ」OB会を開催した。メンバー一六名中五十六名が出席した。商大時代のOBの方は全員出席されていたと思う。料亭の舞台では、当時流行していた歌声喫茶の雰囲気そのまま繰りひろげられた。

この会をきっかけに以後四、五年に一度開催することになった。

二泊三日で明日香村と奈良町を探索したことがあった。当時東大阪市の副市長を退き明日香村の助役をされていた故渡辺敏之さん（文昭和三十二年卒）が心のこもった案内をして下さった。古民家風の宿で、その夜は、ほとんど眠らずに語り合った。

平成十六年三月の会には、メンバー一〇〇名うち三十七名が出席した。

平成二十八年七月十六日愈々ラスト

OB会を、大阪駅ホテルグランヴィア29階季節料理店しづくで開催した。メンバー五十名うち出席者十六だった。



出席者最長老は商大二十九年卒業八十四歳の奥角長生氏、最若手は経済三十

七年卒業七十七歳三谷哲雄氏。アルコールが入って元気な弁舌が続く。昭和二十二年、昭和四十三年公演記録を見ながら、学内外各所で演じた演劇、放送劇を当時を振り返りながら語りあった。「つのぶえ」が各人の心の中で大学生活の思い出として今も大きくふくらみ続けている。

ラストOB会出席者は左記十六名（卒年順）

- 奥角長生（商29） 福田泰久（経30）
  - 花垣厚實（文32） 山田農茨（文32） 山田郁子（同夫人） 山本哲也（文32） 大橋也寸（文32） 西尾雅一（経34） 磯田憲宏（商35） 高崎継義、津田聖子、山脇洋子（以上文35） 奥村英忠（文36） 能川克明（経36） 三谷哲雄（経37）
- 今後は、集ろう！との声がる時、随時集ろう、と意見一致散会となった。（公演一覧表は次頁にて）

有恒会のホームページを

ご覧下さい

[www.osaka-cu.com/](http://www.osaka-cu.com/)

yukokai



# 公演一覧表

(旧制商大～市大演劇部～つのぶえ；from 1947 to 1968)

2016.7.14

『フィナーレ』	S22年7月、作：秋田雨雀、演出：泉敏夫、毎日会館、旧制商大文化祭
『署長さんはお人好し』	S23年2月、作：G・クウルトリース、演出：泉敏夫、文化会館、旧制商大単独公演
『沈殿』	S23年7月、作・演出：泉敏夫、朝日会館、旧制商大文化祭、創作劇
『その人を知らず』	S24年6月、作：三好十郎、演出：松田昇、毎日会館、旧制商大文化祭
『音の世界』	S24年11月、作：岸田国士、演出：松田昇、朝日会館、旧制商大文化祭
『火あそび』	S25年7月、作：ストリンドベルグ、訳：楠山正夫、演出：冬木敏夫、毎日会館、第1回文化祭
『鷺一羽』	S25年12月、作：鳥添康夫、演出：薩摩進、朝日会館、旧制商大文化祭
『たつのおとしご』	S26年6月、作：真船豊、演出：田結莊哲治、三越劇場、旧制商大・市大演劇部合同公演
『見事な女』	S26年6月、作：森本薫、演出：伊沢裕、三越劇場、旧制商大・市大演劇部合同公演
『衣裳』	S26年11月、作：森本薫、演出：山口幸夫、毎日会館、第2回文化祭
『白い晴れ着』	S27年6月、作：ポールグリーン、訳：倉橋健、演出：吉川迪夫、大手前会館、創立3周年記念大学祭
『悲願』	S27年6月、作：高橋昇之助、演出：関口晃宏、大手前会館、創立3周年記念大学祭
『狂ったバス』	S27年12月、作・演出：山口幸夫、BKスタジオ、放送劇
『パントマイム』	S28年4月、作：一、演出：橋口晃宏、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『クノック』	S28年5月、作：ジュール・ロマン、訳：佐々木孝丸、演出：日比野諦観、夕陽丘会館、第1回自主公演
『結末のない話・第3話』	S28年7月、作：チェホフ、訳：下村正夫、演出：倉井弘延、大手前会館、全大阪学生演劇祭
『フオスター大佐の服罪』	S28年10月、作：ロジェ・ヴァイアン、訳：安藤次男、演出：関口晃宏、大手前会館、第4回大学祭
『人生案内』	S29年5月、作・演出：小田切成明、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『怒りの夜』	S29年5月、作：アルマン・サラクルー、訳：道井直次・鎌田博、演出：坂本雅信、夕陽丘会館、第2回自主公演
『まぐろの村の物語』	S29年9月、作・演出：桜井宗和、BKスタジオ、放送劇
『夜汽車』	S29年11月、作・演出：小田切成明、BKスタジオ、放送劇
『遠程』	S29年12月、作・演出：小田切成明、夕陽丘会館、第5回大学祭、創作劇
『雅うた歌』	S30年6月、作：矢代静一、演出：吉本洋一、夕陽丘会館、第3回自主公演
『まぐろの村の物語』	S30年6月、作：桜井宗和、脚色：西坂博、演出：西坂博、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『次男坊』	S30年6月、作・演出：桜井宗和、BKスタジオ、放送劇
『笛』	S30年7月、作：田中千禾夫、演出：西坂博、天王寺美術館講堂、アトリエ公演
『彦市ばなし』	S30年7月、作：木下順二、演出：大門昌博、天王寺美術館講堂、アトリエ公演
『さまよえる時』	S30年11月、作・演出：小田切成明、市大杉本町講堂、第6回大学祭
『曇天』	S30年11月、作・演出：遠家宣昭、市大杉本町講堂、第6回大学祭
『雷雨』	S31年5月、作：曾禺、演出：吉本洋一、夕陽丘会館、第4回自主公演
『彼女の夫に嘘をついたお話』	S31年6月、作：バーナード・ショウ、演出：吉本洋一、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『愛の伝説』	S31年9月、作：ナジム・ヘクメット、訳：村上節子・堀内弘子、演出：西尾雅一、大阪市教育会館、アトリエ公演
『いけばな』	S31年11月、作・演出：遠家宣昭、天王寺美術館講堂、第7回大学祭
『泥棒たちの舞踏会』	S32年6月、作：ジャン・アヌイ、訳：鈴木力衛、演出：西坂博、夕陽丘会館、第6回自主公演
『雪』	S32年11月、作：村田武之、演出：高崎継義、市大杉本町講堂、第8回大学祭
『結末のない話・第1話』	S32年12月、作：チェホフ、演出：池田脩、市大武道場、アトリエ公演
『気ままな娘』	S33年5月、作・演出：遠家宣昭、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『どれい狩り』	S33年5月、作：安部公房、演出：村田武之、夕陽丘会館、第7回自主公演
『狐山伏』	S33年7月、作：木下順二、演出：遠家宣昭、兵庫県龍野市、地方公演
『自殺プラン』	S33年11月、作・演出：遠家宣昭、市大杉本町講堂、第9回大学祭
『音瀬ほらふき権太』	S34年4月、作：山脇正邦、演出：高崎継義、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『自殺プラン』	S34年5月、作・演出：遠家宣昭、朝日会館、大阪学生演劇祭
『カルラールのおかみさんの銃』	S34年10月、作：ベルトール・ブレヒト、演出：村田武之、市大杉本町講堂、第10回大学祭
『西の国の人気者』	S35年6月、作：シング、訳：松村みね子、演出：向山平八郎、市大杉本町講堂、第8回自主公演
『死人の群れ』	S35年10月、作・演出：村田武之、市大杉本町講堂、第11回大学祭
『狐とぶどう』	S36年5月、作：ギリエルメ・フィゲレイド、演出：村瀬義一、大手前会館、第9回自主公演
『恭しき娼婦』	S36年11月、作：サルトル、演出：鎌田善勝・中川岩夫、市大杉本町講堂、第12回大学祭
『セールスマンの死』	S37年11月、作：アーサー・ミラー、演出：垂水健一、大手前会館、第10回自主公演
『共犯』	S37年5月、作：吉田郁治、演出：垂水健一、市大杉本町講堂、第13回大学祭
『自由日本放送』	S38年、作・演出：垂水健一、大手前会館、第11回自主公演
『泡立つ夏』	S38年4月、作：岩佐昌暉、演出：垂水健一、市大杉本町講堂、新入生歓迎会
『地の群れ』	S39年5月、作：井上光晴、脚色：垂水健一・安西清尚、演出：平塚匡・張間隆蔵、大手前会館、第12回自主公演
『どらまあ』	S39年11月、作：平塚匡、演出：長谷川秋水、市大杉本町講堂、第15回大学祭
『地の群れ』	S40年6月、作：井上光晴、脚色：長谷川秋水、演出：長谷川秋水、大手前会館、第13回自主公演
『蜜の味』	S41年、作：シーラ・デラニー、演出：橋本克己、大手前会館、第14回自主公演
『スパイ』	S41年11月、作：ベルトール・ブレヒト、演出：朝原晏吉、市大杉本町講堂、第17回大学祭
『白墨の十字』	S41年11月、作：ベルトール・ブレヒト、演出：川島三夫、市大杉本町講堂、第17回大学祭
『明治の樞』	S42年、作：宮本研、演出：平塚匡、関電ホール、第15回自主公演
『セチュアンの善人』	S43年、作：ベルトール・ブレヒト、演出：伊藤友子、堺市民会館、第16回自主公演
『ガラスの動物園』	S43年6月、作：テネシー・ウィリアムズ、演出：北島正、第17回自主公演

※題目が太字のものは、別にスタッフ、キャストの詳細、又その一部には当時のパンフレットからエッセイ、エピソード、写真などHPに表示予定